



JSQC ニュース

No.300

発行 社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス JSQC評論の定期的掲載とメールによる情報発信
- 2-私の提言 「マネジメント層の品質管理教育」
- 2-ルポルタージュ 第347回中部事業所見学会
- 3-「QMS有効活用及び審査研究部会報告書」発刊によせて/事務局からのお知らせ/3月の入会者紹介
- 4-行事案内/論文募集

JSQC評論の定期的掲載とメールによる情報発信

広報委員会 委員長 兼子 毅

様々な品質問題の社会問題化

メールニュースや、Webページを良く眺めていらっしゃる会員はすでにご存知だと思うが、あるきっかけがあり、「JSQC評論」というコーナーを学会Webに新設した。私たちを取り巻く製品やサービスの品質は、長い時間を経て熟成され、世界的に見ても、日本で入手出来る製品やサービスの品質は極めて高いと言える。消費者としての私たちは、そのような状況がごく当たり前のこととして考えており、商品に貼付されているラベルに書かれていることを全て事実として受け入れている。

その一方で、成熟した市場においては厳しい価格競争が繰り返され、労働単価や原料単価が安い海外の開発途上国で製造・加工された製品が大量に私たちの身の回りに存在する。それらの多くは、もちろん十分な品質管理の元で製造され、一定の品質を確保出来ているが、発注者側や消費者が想像もできないような不正やごまかしの事例もしばしばニュースに取り上げられている。国内に目を向けても、産地偽装や賞味期限のごまかしなど、品質だけでなく、倫理的にも重大な問題が散見される。

学会の社会的責任

このような中で、日本で唯一の「品質管理」を標榜する学会として、なにか社会に発信すべきではないか、学会の社会的責任を果たすべきではないのか、という議論が、しばしば

理事会でも行われてきた。しかし、常に問題となるのは、「学会として」の発言は事実上不可能で、「学会長たる個人として」あるいは「学会理事を務めている個人として」の意見表明しかできないのではないかと、いうことであった。

また、特定の、社会的に大きな話題となった品質問題を取り上げて意見表明を行うことは、特定の企業などに対する誹謗中傷、あるいは名誉毀損になってしまうのではないかと、いうことも、常に議論的であった。

今回、極めて難しい決断ではあったが、特定の企業に対する非難や誹謗ではなく、その出来事から見えてくる、日本の品質管理、あるいは世界の品質管理に関わる問題点を指摘し、今後考えるべき方向、進むべき領域を社会に発信していくことは極めて重要である、という結論に達することができた。

定期的なJSQC評論のWeb掲載とコメントのメール配信

今後も特定の事件を引き金にするのではなく、理事会などが中心となって、「このような問題について社会に発信すべきである」と考える事項について、定期的に社会に発信することを決めた。これは学会の「公式見解」ではなく、あくまでも執筆いただいた個人の見解である。しかしながら、そのような個人の見解を学会のWebページを通じて社会に発信した、という意味で責任を負うこと

になる。

もちろん、ひとつの事項について、様々な見解があり得る。そこで、今回のJSQC評論でも、会員からの意見やコメントを募集した。公開後すぐに何通ものコメントをいただいた。それらに対する執筆者からのコメントもいただいている。これらのコメントは、公表されることを意図して送付されたものではなく、あくまでもWebに掲載された記事に対するコメントであり、著者が目にするものと了解していただいている、と判断している。理事会としては、会員からのコメント、及び回答をWebに掲載すべきかどうか議論し、当面はメールニュースにてそれらを配信することにした。すなわち、学会のメールニュースに登録されている特定多数の方たちに、まずは開示する、ということである。

アドレス登録のお願い

現在学会のメールニュースには、全会員の8割程度の方が登録されている。今後学会からの情報発信に、ますますメールを活用することも検討されている。まだ、学会事務局にメールアドレスを登録されていない方は、是非とも登録をお願いしたい。会員番号と氏名、及び登録するメールアドレスを記載して、以下のアドレスに送付していただきたい。

apply@jsqc.org

これからも会員の皆様の積極的な学会活動への参加をお願いする。

● 私 の 提 言 ●

マネジメント層の品質管理教育

大阪電気通信大学 猪原 正守



デミング賞受賞企業でも、方針管理活動やSQC活動を5年ほど休止していると、品質管理の基

本が空洞化し、品質力はTQM導入当初のレベルに逆戻りする。その結果、方針管理における管理特性が欠落して目標管理となったり、方針管理と日常管理の区分がつかなくなったりする。また、 $\bar{X}-R$ 管理図における群内変動と群間変動の意味を知らなかったり、管理限界と規格値の区別がつかなくなったりする。前者は、経営中長期計画の達成のみが優先され、執行役員や部次長などのマネジメント層が中核となる魅力

的で妥当性のある年度方針の策定力の脆弱さと、年度方針のPDCAを通じたプロセスマネジメント力の低下を引き起こしている。後者は、「工程が正常であること」と「工程能力指数が十分であること」が混同されるという末期的症状を引き起こしている。

マネジメント層に対する品質管理教育には、経営マネジメントシステムとしての方針管理、日常管理、機能別管理あるいは品質保証体制の構築と運営などに対するOffJT教育と、方針管理活動におけるトップ診断、月次報告会あるいは外部指導講師による指導会などを通じたOJT教育がある。このうち、各種教育機関における当該教育への参加者数の減少に歯止めがかからない状況が続いているが、その重要性に気づ

いた幾つかの企業で方針管理活動を通じたOJT教育が再燃化しようとしている。

その際に問題になるのは、マネジメント層の「現状把握力—問題点の顕在化—の弱さ」と「精度の高い実施計画策定力の弱さ」である。前者は、バブル崩壊期に適切な品質管理教育の機会を喪失したマネジメント層に共通する弱さでもある。後者は、問題解決プロセスの予知・予測に対する弱さが主たる原因であり、問題解決のスピード力が企業力を支配する企業活動において致命的な弱さともなっている。

SWOT分析やBSC分析などの新しい分析ツールが開発・利用されているが、本質をデータで明らかにするQC的問題解決法に対する無理解が、こうした問題点の本質的な原因であるように思える。理事として、また、品質誌の特集企画担当者の一人として、マネジメント層に対する品質管理教育の重要性を指摘し、彼らにとって役に立つ企画を提案して行きたいと願っている。

第347回中部
事業所見学会
ルポ(株)東海理化
音羽工場

さる平成22年3月24日(水)に第347回事業所見学会(中部支部87回)が、(株)東海理化 音羽工場(愛知県豊川市)で開催された。「東海理化における未然防止のための自工程完結」のテーマの下、42名が参加した。

同社は、1948年(昭和23年)に設立し音羽工場は1966年(昭和41年)より操業を開始した。鋳造、加工、組付を行う一貫生産の工場であり、エンジンキーやステアリング、シフトレバーなどを製作している。

見学に先立ちテーマの説明があった。人の手が直接触れる製品は多様な評価を市場で受けるため、一歩間違えば大きな問題になり兼ねない。これらの問題を未然に防止して、ユーザーが満足する品質をつくり込むことが大変重要であり、東海理化では、経営トップの「世界No.1品質」の理念のもと、開発・設計、生産準備、生産のステップにおいて、未然防止の活動を明確化し、確実に実

施し完結させている。そして、製造現場では、工程内不良“0”に挑戦し、設計・生技・製造の三位一体による改善活動を展開している。

見学では、広い工場を一通り巡ることができた。ステアリングの工程では異物管理が徹底しており、作業服やウエスに至るまで異物を発生させないよう改善が実施されている。他の工程でも、ワークに対応したスイッチのみが現れるように工夫を凝らしたからくり改善や、過去のトラブルをワークシートに整理し、作業員自らが講師となって教育するしくみ、人の計画的な変化、設備故障の突発的な変化などが見える化し、アクションにつながる変化点管理のしくみを確認することができた。どの工程も未然防止活動として、従業員が全員一丸となって、改善や品質管理、人材育成をしっかりと展開しており大変感心させられた。参加者にとっても大変参考になったことと思う。

東海理化の皆さまには、業務多忙の中、充実した見学内容と丁寧で分かりやすい説明に、この場を借りて厚くお礼を申し上げたい。

皆川 清彦(アイシン精機株)

「QMS有効活用及び審査研究部会 第2期研究報告書」 発刊によせて

部会長 福丸 典芳

審査員力量向上のための研究会の成果として2002年に「ISO9000：2000に基づく第三者審査のためのガイドライン」を発行（日本品質管理学会 計画研究会 福丸典芳主査）した。その後も審査員の力量に関する課題が依然として多く出されており、組織に役に立つ審査をして欲しいという組織からの要望を考慮し、審査員の審査技術を向上させるための研究を行うため、「QMS有効活用及び審査研究部会」を2005年6月に設立した。

第1期研究活動は2005年6月～2008年5月に完了し、その成果をシンポジウム、研究発表会及び研究報告書を通じて発表してきた。これに引き続いて、第2期活動を2008年6月から次の6つのテーマで研究を開始し、その成果を今回報告書としてまとめたので、参考にさせていただければ幸いである。

WG1：QMS有効性の向上に役立つ審査

WG2：次世代対応のQMS構築と審査技法

WG3：プロセスの順序と相互関係の表し方

WG4：マネジメントの原則から見た統合審査技術

WG5：ISO9001における効果的な組織の推進方法に関する研究

WG6：智徳人間力による、人、組織、社会の持続的成功

申込方法：E-mailまたはFAXにて資料名、部数、会員番号、氏名、所属、送付先住所、電話番号をご連絡の上お申し込みください。

申込先：E-mail apply@jsqc.org FAX 03-5378-1507

資料代：1冊（A4判268頁）会員3,000円（税込み）非会員4,000円（税込み）、QMS部会員は1冊目限り1,500円。送料：1冊340円（冊子小包）、2冊500円（宅配）他多数の場合、事務局までご連絡ください。

振込先：(社)日本品質管理学会

三井住友銀行 渋谷支店 普通預金 0922517

※資料は入金を確認の上、送付いたします。

事務局からのお知らせ

「JSQC選書（日本品質管理学会監修）」好評発売中

●JSQC選書7

書名：日本の品質を論ずるための品質管理用語85

編者：(社)日本品質管理学会 標準委員会

●JSQC選書8

書名：リスクマネジメント—目標達成を支援するマネジメント技術—

著者：野口和彦

●JSQC選書9

書名：ブランドマネジメント

—究極的なありたい姿が組織能力を更に高める—

著者：加藤雄一郎

●JSQC選書10

書名：シミュレーションとSQC

—場当たりのシミュレーションからの脱却—

著者：吉野睦・仁科健

判型等：四六判、並製本、152ページ

定価：1,575円（税込）→ 学会員特典価格：1,260円（税込）

申込方法：ホームページより会員専用注文書をダウンロードし、FAXにてお申し込みください。E-mailでも受付しています。

http://www.jsqc.org/ja/kanren/jsqc_sensyo.html

申込先：本部事務局 FAX 03-5378-1507 E-mail apply@jsqc.org

※書籍は請求書を同封して(財)日本規格協会から発送いたします。

2010年3月の 入会者紹介

2010年3月11日の理事会において、下記の通り正会員7名、準会員1名、賛助会員2社の入会が承認されました。

.....
(正会員7名) ○今井 義明（シー・エス・イー）○辻 秀彦（ユリョーテクニカルサポート）○石橋 正将（茂原アテックス）○小原 幸男（コマツ）○持田 勝見（アイソイット・ラボ）○江口 隆夫（アイ・ビー・エム ビジネスコンサルティングサービス）○横村 忠幸（東京電力）

(準会員1名) ○崔 太峰（早稲田大学）

(賛助会員2社4口) ○東北電力○ニコン精機カンパニー

正会員：2490名

準会員：85名

賛助会員：159社185口

公共会員：24口

行事案内

●第92回研究発表会

日時：2010年5月29日(土)30日(日)
会場：日本科学技術連盟 東高円寺ビル
プログラム：

- ・5月29日(土)
 - 10:00～11:10
チュートリアルセッションA
「科学の文法としての統計学」
椿 広計氏（統計数理研究所）
 - 11:15～12:25
チュートリアルセッションB
「国際標準化の最近の動向」
井口新一氏
（財日本適合性認定協会）
 - 13:20～14:20
緊急特別講演「問題解決力向上への学習指導要領改訂」
渡辺美智子氏（東洋大学）
 - 14:30～17:40 研究発表会
 - 18:00～19:30 懇親会
- ・5月30日（日）
 - 10:00～15:50 研究発表会

参加費：

- チュートリアルセッション・研究発表会
 - 会員6,000円（締切後 6,500円）
 - 非会員11,000円（締切後11,500円）
 - 準会員3,000円・一般学生4,000円
- 研究発表会のみ(1日参加/2日参加とも)
 - 会員4,000円（締切後4,500円）
 - 非会員8,000円（締切後8,500円）
 - 準会員2,000円・一般学生3,000円
- 懇親会
 - 会員・非会員4,000円
 - 準会員・一般学生2,000円

申込締切：2010年5月19日（水）

申込方法：4月送付の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。ホームページからも申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

●第350回事業所見学会（中部）

テーマ：知多火力発電所における品質と環境への取り組み

日時：2010年6月16日(水)13:00～17:00
見学先：中部電力(株) 知多火力発電所
定員：40名

※同業他社のお申し込みはご遠慮ください。

参加費：会員2,700円 非会員3,700円

準会員1,700円 一般学生2,200円
（事業所内移動バス利用料含む）
送迎バス代（別途）往復400円

申込締切：5月26日(水)到着分まで
（定員になり次第締切）

申込方法：会員No、氏名、勤務先、所属、連絡先を明記の上、中部支部事務局までお申し込みください。

●第109回講演会（関西）

テーマ：環境成長経済に立ち向かう企業戦略

日時：2010年6月25日(金)14:00～17:20
会場：大阪大学中之島センター
10階メモリアルホール

プログラム：

講演①：「第5軸の競争軸
～21世紀の新たな市場原理～」
ピーター・D・ピーダーセン氏
（株）イスクエア

講演②：「脚光を浴びる太陽光発電
～その可能性と長寿命化への課題～」
桑野幸徳氏

（太陽光発電技術研究組合）

参加費：会員3,000円 非会員4,000円
準会員1,500円 一般学生2,000円
※当日払い

申込方法：4月送付の参加申込書にご記入の上、関西支部事務局までお申し込みください。

●第346回事業所見学会（本部）

テーマ：トラックの新たな生産方式のご紹介

日時：2010年6月29日(火)14:00～16:15
見学先：日野自動車(株) 本社・日野工場
定員：30名

※同業他社のお申し込みはご遠慮ください。

参加費：会員2,500円 非会員3,500円
準会員1,500円 一般学生2,000円
※当日払い

申込締切：6月28日(月)到着分まで
（定員になり次第締切）

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第353回事業所見学会（関西）

テーマ：ヤクルトの品質保証から学ぶ

～新興国での消費も拡大する
安心を安定的に提供するヤクルトの工夫

日時：2010年7月13日(火)午後

見学先：ヤクルト 京都工場

定員：30名

参加費：会員2,500円 非会員3,500円
準会員1,500円 一般学生2,000円
※当日払い

申込方法：会員No、氏名、勤務先、所属、連絡先を明記の上、関西支部事務局までお申し込みください。

●第93回研究発表会（中部）発表募集

日時：2010年8月25日(水)10:00～17:00
会場：名古屋工業大学

申込締切：

発表申込締切：5月31日(月)

予稿原稿締切：7月23日(金)必着

参加申込締切：8月18日(水)

詳細：ホームページをご覧ください。

申込方法：会員No、氏名、勤務先、所属、連絡先を明記の上、中部支部事務局までお申し込みください。

●第94回研究発表会（関西）

日時：2010年9月10日(金)

会場：大阪大学中之島センター

申込期限

発表申込締切：7月23日(金)

予稿原稿締切：8月25日(水)

詳細：同封の案内をご覧ください

行事申込先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本部：166-0003 杉並区高円寺南1-2-1

TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail: apply@jsqc.org

事務局携帯:090-9128-7979

中部支部：460-0008 名古屋市中区栄2-6-1

白川ビル別館

TEL 052-221-8318

FAX 052-203-4806

E-mail: nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-25

TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail: kansai@jsqc.org